

平成 29 年度

# 運営協議会報告書



**鶴岡高専**

National Institute of Technology, Tsuruoka College

平成 30 年 3 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

鶴岡工業高等専門学校



## はじめに

最近、高専の卒業生の活躍が非常に多く目につきます。東京工業大学の細野秀雄教授は東京高専の出身であり、鉄系超伝導体の発見により一昨年はノーベル賞の最有力候補とされていました。同じくフレキシブルエレクトロニクスの第一人者で、非常に柔らかいフィルムに電子回路を印刷により作製した事で知られている山形大学の時任静士教授は都城高専の出身です。いずれも最終学歴が東京都立大学と九州大学なので目につかないのでしょうか。その他にもキラ星のごとく優秀な高専卒の研究者が多くいます。

しかしながら創設当初と比べて、高専の認知度並びに評価は低くなっていると言わざるを得ません。その最も大きな理由は高専自身のPR不足と改革を推進するための方策の不熟さにあると考えます。そこで今年度は3つの対策を講じました。一つ目はマスコミによる広報で、二つ目は卒業生の活用、そして三つ目は他県への展開です。

まずマスコミによる広報ですが、昨年10月と11月に山形新聞に一面広告で鶴岡高専の学校紹介をさせて頂きました。この時期が中学生が進路を決める時期であることが一番の理由ですが、一般の方々に広く高専を正しく知って頂くことも目的の一つです。キャッチフレーズは「知れば知るほど、実力派」とし、在校生と卒業生による証言を中心に内容を構成させて頂きました。

つぎに卒業生の活用ですが、多くの優秀な方々を輩出し、しかもその方々が母校に何か貢献したいと考えておられるにもかかわらず、本校との結びつきが脆弱です。そこで、とっかかりとして本校の現状を卒業生の方々に見て頂こうと考え、昨年10月末に開催された高専祭（昨年は4年に一度の鶴峰祭）に合わせてホームカミングデイを開催しました。初めての企画ですので1回生から3回生までの卒業生を対象とさせて頂きました。旅行代理店との連携が悪く、僅かな参加者に終わりましたのは残念ですが、参加頂きました方々には大変好評でした。

最後に他県への展開ですが、やはり少子化に伴う入試への対応策を検討し実行することが喫緊の課題です。本県の人口と仙台市の人口はほぼ等しく、したがって仙台でPR活動を進めております。将来的には仙台高専との複数校志望制度を入試に導入することも検討したいと思っております。さらに昨年は秋田県南の由利本荘市とにかほ市で中学校訪問と学校説明会を開催致しました。

さらに一層の教育、研究そして地域貢献の充実を図る所存です。委員各位の忌憚ない意見を頂ければ幸いです。

平成30年3月

鶴岡工業高等専門学校  
校長 高橋 幸司

# 目次

## はじめに

### I. 平成 29 年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会

1. 運営協議会日程 .....	1
2. 鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員出席者 .....	2
3. 学校関係出席者 .....	3
4. 議事 .....	4
5. 評価の結果 .....	45

### II. 平成 29 年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会資料

# I. 平成29年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会

## 1. 運営協議会日程

日 時： 平成29年12月19日（火） 13時30分から15時40分まで

場 所： 鶴岡工業高等専門学校 大会議室

次 第

進 行 順 序	説 明 事 項 等	説 明 者 等
開 会		進行・総務課長
校長挨拶		校 長
運営協議会委員紹介		校 長
本校出席者紹介		総務課長
日程及び配付用の資料の説明		総務課長
委員長（議長）選出		総務課長
委員長挨拶		委 員 長
事項別説明①	I 教務に関する事項 II 学生に関する事項 III 専攻科に関する事項 《 質疑応答 》	教務主事 学生主事 専攻科長
休 憩		
事項別説明②	IV 国際交流に関する事項 V 地域連携に関する事項 VI 管理運営に関する事項 《 質疑応答 》	国際交流支援室長 地域連携センター長 事務部長
各委員からの総括	『1人2分』	各 委 員
委員長まとめ		委 員 長
校長お礼		校 長
閉会挨拶		総務課長

## 2. 鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員出席者

区 分	現 職	氏 名
1号委員	前田製管株式会社 相談役	マエ タ ナミ 前 田 直 己
	山形県庄内総合支庁長  (代理) 山形県庄内総合支庁産業経済部長	オ ノ シ ヤ 小 野 真 哉  キ ムラ カズ ヒロ 木 村 和 浩
	田川地区中学校長会会長 (鶴岡市立鶴岡第二中学校長)	イシザキ ユキ ヒロ 石 崎 幸 宏
2号委員	長岡技術科学大学長	アズマ ノブ ヒロ 東 信 彦
	山形大学農学部長	ハシダ ミツ ヒロ 林 田 光 祐
3号委員	鶴岡高専技術振興会会長 (鶴岡市長)	シカガキ 治 皆 川 治
	鶴岡高専峰友会副会長	オノタ アキ オ 恩 田 明 雄
校 長	鶴岡工業高等専門学校長	タカハシ コウジ 高 橋 幸 司

(敬称省略)

### 3. 学校関係出席者

職 名	氏 名
副校長（総務・教務担当）／教務主事／創造工学科長	佐 藤 貴 哉
副校長（学生担当）／学生主事	神 田 和 也
副校長（寮務担当）／寮務主事	本 間 浩 二
副校長（専攻科担当）／専攻科長	飯 島 政 雄
副校長（研究・地域連携担当）／地域連携センター長／ 教育研究技術支援センター長	吉 木 宏 之
基盤教育グループ長	上 松 和 弘
機械コース長	當 摩 栄 路
情報コース長	渡 部 誠 二
化学・生物コース長	瀬 川 透
国際交流支援室長	佐 藤 貴 哉
F D委員会委員長	吉 住 圭 市
事務部長	阿 部 敏 樹
総務課長	千 葉 善 弘
学生課長	佐 藤 俊 次
総務課課長補佐（総務担当）	齋 藤 靖
総務課企画・連携係長	庄 司 由紀彦